



高花平だより

2018. 2. 14
第 21 号

四日市市立高花平小学校

厳しい寒さが続いています、^{ひかり}「光の春」という言葉があるように、^{ひざし}日差しには春の明るさ、^{ちからづよ}力強さが感じられるようになってきました。3学期もあと一か月余りとなりました。

3年生が四郷郷土資料館を見学



1月30日（火）に、3年生が四郷郷土資料館を見学しました。四郷郷土資料館は、大正10年に四郷村役場として建てられ、現在は昔の道具などを展示する資料館となっています。農業や製糸業などの道具類のほか、手動式洗濯機など昔の生活を物語る道具などが数多く展示してあります。子どもよりも私のような年代のものが懐かしく感じるものがたくさんありました。子どもたちは、保存会の方々の話を聞いたり、「しおり」に書いてある道具をさがしたりしながら、昔

と今の違いや心に残った道具などをしおりにまとめていました。

また、2月2日（金）には、地域のみなさんから「昔の遊び」を教わり、楽しい2時間を過ごしました。運動場と視聴覚室で、リム転がしやメンコ、コマ回し、けん玉、あやとり、お手玉などを地域の方々と共に楽しみました。いろいろな人とのふれあいから、多くのことを学ぶことができたのではないかと思います。



人権について考える

1月28日（日）、四郷地区市民センターで四郷地区人権啓発推進協議会主催の「発表のつどい」がありました。笹川中学校区と西笹川中学校区の小・中学校6校から選ばれた各校2名の子どもたちによる人権作文の発表がありました。本校からは、長谷井みつばさんと伊藤寧音さんが発表しました。ふたりとも、いじめをテーマにした作文で、自分の体験を振り返りながら、いじめを受けた時の悲しさ、いじめを見て見ぬふりをする問題点を考え、いじめをなくすために行動する決意を述べていました。作文発表の後、心理カウンセラーによる講演がありました。カウンセラー自身の虐待体験や養護施設の子どもの通して見た児童虐待の実情について語られました。「どんなひどい親でも子どもにとってはかけがえのない大切な親」という子ども自身が抱える葛藤が、子どもの精神をもむしばんでいくことがよく分かり、切なくなってきました。人権についてじっくり考えることのできた半日でした。

クラスマッチ(児童会行事)で学級の絆を深める

2月9日（金）、学級対抗のドッジボール（低学年はドッジビー）、ドン



じゃんけん、〇×クイズを行い、校内中が大変盛り上がりしました。この取組のポイントは、体力（ドッジボール）・知力（〇×クイズ）・運（ドンじゃんけん）



といった総合力で競い合うところです。だれもが活躍できる可能性があるところがいいところだと思います。1年間ともに歩んできた仲間とのよい思い出づくりになったのではないのでしょうか。